

## 平成29年度 施工部会 第二回部会 開催報告

平成29年12月2日(土)、「県道いわき石川線(石川バイパス)」の4号橋下部工工事に於いて、施工部会主催の「NDリターダー工法」見学会を開催し約30名が参加しました。

「NDリターダー工法」は、マスコンクリートの温度ひび割れ抑制技術で、コンクリートを打設する場合、岩盤や硬化した既設コンクリートによる拘束を低減するために、その境界部に超遅延剤を添加したコンクリート層を設ける工法です。

見学会では、施工業者である藤田建設工業株式会社の会議室において、当研究会会長の岩城一郎先生、藤田建設工業(株)常務取締役 江田忠様の挨拶の後、「NDリターダー工法」の開発者である日本コンクリート技術(株)代表取締役 篠田佳男様から当工法の説明、現場代理人の遠藤康男様から工事内容の説明をいただきました。

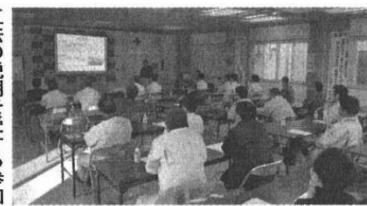
その後、施工現場に移動して「NDリターダー工法」による温度ひび割れ抑制状況を見学し、参加した会員からは活発な質問があり、有意義な見学会となりました。

今回の見学会に快く協力いただきました藤田建設工業株式会社の方々に厚く御礼申し上げます。

なお、当見学会の内容が平成29年12月11日の「福島建設工業新聞」一面に掲載されました。



工法の説明を受ける参加者



ストリート  
マシニング  
インフラ  
長寿設計  
石川B.P.橋下部工見学

ふくしまインフラ長寿  
命化研究会施工部会(部  
会長)宮井隆利会津土建  
執行役員技術管理部長

は、このほど、県が整備を  
進める主要地方道いわき  
石川線・石川バイパス4  
号橋下部工の施工現場  
で、今年度第2回見学会  
を開いた。マスコンクリ  
ート構造物の温度ひび割  
れ抑制技術「NDリター  
ダー工法」で施工した橋  
台を見学し、同工法につ  
いての理解を深めた。

マスコンクリートは、  
壁や橋梁下部工など質  
量・体積が大きなコンク  
リート構造物、コンクリ  
ートを打設する際、施工  
後の温度降下に伴い収縮  
変形が発生するが、地盤

や既設コンクリート等  
(拘束体)により底部分  
が固定される場合、自由  
に収縮できない状況とな  
り、ひび割れが発生する。  
同工法は、拘束体と新  
設するコンクリートの間  
に、水和抑制型超遅延  
材「NDリターダー」を  
添加したコンクリートを  
打設する。この層は硬化  
速度が遅いため、新設す  
るコンクリートは自由な  
収縮変形が可能となり、  
ひび割れが抑制できる。

見学会に先立ち、施工  
者の藤田建設工業本  
(棚倉町)で同工法の説  
明会を開いた。会員ら約  
30人が参加。同研究会長  
の岩城一郎日本工  
部土木学科教授は「施工

期で工事を進めている。

は施工現場で、同工法を  
採用して完成した4号橋  
の橋台(A2)を見学し  
ており、30年2月20日工

における品質確保は大切  
だ。知識を増やし、広い  
視野でさまざまな工法が  
あることを学んでほし  
い、江田忠藤田建設工  
業常務取締役は「コンク  
リートのクラック対応に  
苦労していると思う。見  
学会を通して皆さんを積  
み、今後に役立ててほし  
い」とあいさつした。

同工法を開発した日本  
コンクリート技術の篠田  
佳男社長が、施工事例を  
挙げながら性能や効果に  
ついて説明した。参加者